

(様式第1号)

自己評価及び外部評価結果票

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4170200291		
法人名	有限会社 ハート		
事業所名	グループホーム安庵		
所在地	佐賀県 唐津市 佐志 1156-26		
自己評価作成日	令和5年9月14日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	www.kaigokensaku.mhlw.go.jp
-------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市天神一丁目4番15号		
訪問調査日	令和5年11月17日	外部評価確定日	令和5年12月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>唐津市、唐津湾、唐津城、日本三大松原と言われる虹ノ松原が一望できる高台に位置するグループホーム2ユニットです。入居者様はもとより、訪問者の皆様にも「景色が良いですね、ほっとします」といった言葉を頂くことが多く、四季折々の移り変わりを楽しめる事もアピールの一つです。</p> <p>施設では、出来ることを探し一緒に洗濯たたみ等をして頂いたり家庭的雰囲気です。外に目を向ければ緑豊かで、散歩、ドライブ、日光浴を行うよう努めております。施設内は、不快な臭いがないように換気、消毒には十分に気を付けています。</p> <p>管理者は 認知症介護リーダーでもあり、職員も、理念に挙げているように、入居者様お一人お一人のペースを把握して、ご利用者中心の自然な介護を提供出来るよう日頃から努力しています。最近は地域猫活動もしておりアニマルセラピーの効果もあり入居者、職員とも穏やかに日常が送れています。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>法人は3つのグループホームを運営しており、そのうち2つが隣接している。周辺に民家が少ない環境では、他法人施設も含め協力しながら利用者の暮らしを支えている。急かすことなく利用者のペースに合わせたケアには自負もある。また職員の経験は事業所内に限らず法人内でも共有され、互いのスキル向上へと繋げている。看護師資格を持つ職員が多いことも透析やストーマ患者にとって安心となり、医療面で心配はないと答える家族も多い。人手不足の懸念から外国人労働者3名を受け入れているが、利用者とも馴染み、介護福祉士の取得を目指して丁寧に育てている。利用者の一日の過ごし方にはプランもあるが、それを優先する事より現場の裁量に委ねている点も特長である。理念の「楽しく、ゆっくり、のんびりと」が活かされている事業所である。</p>

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(1号館) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(2号館) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	日常に目につくところに(玄関・リビング・職員用トイレ等)掲示している。	日常に目につくところに(玄関・リビング・職員用トイレ等)掲示している。	法人が掲げる運営理念の他に、グループホーム事業部門で統一された理念もある。どちらにも利用者を敬う姿勢や共に暮らす家族であるとの想いが謳われ、目に付く場所に掲示し、職員会議など折に触れ取り上げることで意識付けも図っている。理念は常に立ち戻る基本であり、職員はその実践に努めている。その様子が窺えるひとつに家族との接し方があり、今回の当外部評価アンケートには感謝が記されたものも多い。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議をきっかけに地域の文化祭に作品を展示したり、お祭りに参加したり、お祭り行事の一つである獅子舞の施設訪問を受けるなど、交流を図っている。近隣の施設の夏祭りや花火大会などへも参加させて頂いていたが、コロナ流行後参加できていない。	運営推進会議をきっかけに地域の文化祭に作品を展示したり、お祭りに参加したり、お祭り行事の一つである獅子舞の施設訪問を受けるなど、交流を図っている。近隣の施設の夏祭りや花火大会などへも参加させて頂いていたが、コロナ流行後参加できていない。	長いコロナ自粛を経て、今年は唐津くんちや近隣施設での秋祭りにも出向いている。5類移行とはいえ感染対策には注意を払いながらの交流である。事業所周辺に民家は少なく、他法人施設等とのつきあいになるが、コロナ禍前のように地域の中で利用者が当たり前の暮らしを続けられるよう努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に多方面から出席して頂いている方へ、認知症の人の行動、症状などについて意見交換を行っています。	運営推進会議に多方面から出席して頂いている方へ、認知症の人の行動、症状などについて意見交換を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(1号館) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(2号館) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者様の状況、サービス内容や行事の報告を行い、出席者より意見をいただいた事についてはスタッフの全体会議で検討して、その後の提供サービスに活かしている。	利用者様の状況、サービス内容や行事の報告を行い、出席者より意見をいただいた事についてはスタッフの全体会議で検討して、その後の提供サービスに活かしている。	コロナ禍で集合による会議を控えた月もあるが、殆どは開催できている。隣接する事業所と合同で開き、60分程度を要し家族の参加(交替制)もある。事業所からの報告にはヒヤリハットの公表や身体拘束の有無も含まれる。また玄関に出勤職員の顔写真と名前を掲示していた時には個人情報について考察し見直した例もある。外部の人から率直な意見が得られる貴重な機会と捉え、地域との繋がりや深まりは少しずつ増えているとも感じている。不定期ながら近隣の他法人施設から出席があった際には同業ならではの悩みを相談し合う場面もあり、法人を超えた協力体制も窺える。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日頃より気になる事や分からない事などは、介護認定係や高齢者支援課などに問い合わせをしている。月末に空き状況の調査をされており報告をしている。	日頃より気になる事や分からない事などは、介護認定係や高齢者支援課などに問い合わせをしている。月末に空き状況の調査をされており報告をしている。	行政側には相談事や問い合わせもしやすく、実直に対応してもらえる関係を築いている。電話やメールも活用し、内容によっては直接出向くこともある。最近では後見人制度について問い合わせを行っているが、行政側はその後の状況も気に掛けており、一緒に取り組む姿勢が窺える。また月に一度訪れる介護相談員は的確に気付きを伝えてくれ、今後も橋渡し役として期待している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束排除宣言」内容を記載したものを提示して身体拘束ゼロを目指して実践しています。	「身体拘束排除宣言」内容を記載したものを提示して身体拘束ゼロを目指して実践しています。	入居契約時に指針の説明を行っている。職員は身体拘束の内容やその弊害まで理解しており、現在その実施例はない。研修は法人内外で年に複数回あり、出席した職員は戻って伝達講習も担っている。玄関に施錠はなく、職員の気配りや目配りによって安全で自由な暮らしが支援されている。利用者の所在をみる時には人数ではなく、本人を確認する事が基本である。外へ向かう方がいても行動を抑えることはない。仮に不適切なケアが見られた場合は様子を観察しつつ全体会議で提起するという流れだが、当該職員には自ら気付いてほしいという想いもある。	

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(1号館) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(2号館) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設外研修に出向いて学ぶ機会を持ち、伝達講習を行っている。	施設外研修に出向いて学ぶ機会を持ち、伝達講習を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設外研修に出向いて学ぶ機会を持ち、伝達講習を行っている。	施設外研修に出向いて学ぶ機会を持ち、伝達講習を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書を読み上げ、利用者、家族様の不安や疑問点を伺い、時間をかけて納得して頂けるよう努めている。	契約書を読み上げ、利用者、家族様の不安や疑問点を伺い、時間をかけて納得して頂けるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	月1回行う、運営会議(理事長、各棟の管理者、主任)から、各棟で行う全体会議で協議し、改善するように努め運営に反映させています。	月1回行う、運営会議(理事長、各棟の管理者、主任)から、各棟で行う全体会議で協議し、改善するように努め運営に反映させています。	コロナ規制も緩和され家族の面会も徐々に増えている。玄関内のおしゃれな椅子やテーブル、建物脇に作られた面会室(車椅子用スロープあり)等を活用しながら状況に応じた面会を支援している。家族と直接会話が出来る機会を大切に、世間話等を交えながら、またその時々の様子に配慮しながら想いの聞き取りに努めている。毎月の請求書送付時には利用者毎の近況が記された「安庵ニュース」を同封しており家族には好評である。事業所の特徴でもあるSNSの活用は遠方の家族との面会を可能にし、リアルタイムの写真送信も喜ばれている。訪れる家族とは健康を気遣う言葉掛けを通して信頼も生まれている。	

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(1号館) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(2号館) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の全体会議で話し合い、改善するように努め運営に反映させています。	職員の全体会議で話し合い、改善するように努め運営に反映させています。	毎月の職員会議はユニット毎に概ね90分、休みの職員も基本的に参加である。限られた時間をスムーズに進めるための工夫として内容を事前周知し各自で考えておく、また取り上げてほしい案件があればボードに貼っておく事もできる。行事予定や法人からの周知事項、カンファレンスや勉強会まで内容は多岐にわたるが自由な発言の場でもある。管理者としては働きやすい職場であるよう配慮も必要で、職員とのコミュニケーションはもとより個性を見極めることにも努めている。また定時の帰宅を促し、休暇希望にも応え、現場の声は法人上席にも届けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に1回個人面談を行い、悩み、希望を聞き、その個人を知るようにし、内容によっては顧問税理士、労務士に相談をしながら働きやすい環境を整備している。	年に1回個人面談を行い、悩み、希望を聞き、その個人を知るようにし、内容によっては顧問税理士、労務士に相談をしながら働きやすい環境を整備している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個人のレベルにあった研修を施設内外を問わず平等に受ける事が出来るようにしています。	個人のレベルにあった研修を施設内外を問わず平等に受ける事が出来るようにしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	唐津市内のグループホームの集まりで、2か月に1回研修があり、出来るだけ参加するようにしホームに持ち帰り、伝達講習を行いサービスの向上に努めている。	唐津市内のグループホームの集まりで、2か月に2回研修があり、出来るだけ参加するようにしホームに持ち帰り、伝達講習を行いサービスの向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(1号館) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(2号館) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)		
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援							
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人様の意向を聞き、ケアプランを作成して、説明するようにしている。	本人様の意向を聞き、ケアプランを作成して、説明するようにしている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様の意向を伺い、プランを作成して、説明するようにしている。長期間訪問のない方については郵送して理解を得るようにしている。	家族様の意向を伺い、プランを作成して、説明するようにしている。長期間訪問のない方については郵送して理解を得るようにしている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族様の意向を聞きケアプランを作成して説明するようにしている。	本人、家族様の意向を聞きケアプランを作成して説明するようにしている。			
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	理念に挙げていて、日頃から上から目線ではなく、共に過ごし合えるように努めています。	理念に挙げていて、日頃から上から目線ではなく、共に過ごし合えるように努めています。			
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様の面会が遠退いている利用者様、また コロナ流行後よりテレビ電話など用いて家族との絆を大切にしている。	ご家族様の面会が遠退いている利用者様、また コロナ流行後よりテレビ電話など用いて家族との絆を大切にしている。			

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(1号館) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(2号館) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	本人様の希望を聞きながら、外出、ドライブ、自宅への帰省等支援している。馴染みの方の訪問時は、お茶、お菓子等お出して、ゆっくりして頂けるようにしていたが、コロナ流行後よりテレビ電話などを用いて関係を大切にしている。	本人様の希望を聞きながら、外出、ドライブ、自宅への帰省等支援している。馴染みの方の訪問時は、お茶、お菓子等お出して、ゆっくりして頂けるようにしていたが、コロナ流行後よりテレビ電話などを用いて関係を大切にしている。	入居までの人間関係の把握には本人や家族、担当のケアマネジャーや利用していたサービス事業所、また場合によっては病院のソーシャルワーカーからも話を聞き情報を集めている。通常であればそれらを基に具体的な支援が組まれるところだが、コロナ禍では自粛も多かった。状況をみながら徐々に緩和しているのが現状で、馴染みの美容院へ通う方や自宅で一泊できた方もある。関係継続のためには電話の取次ぎはいつでも可能であり、SNSを活用した顔を見ながらの会話も実施している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングにソファをおき、利用者同士が話しやすいようにしている。	リビングにソファをおき、利用者同士が話しやすいようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院されたらお見舞いに行ったり、電話をしたり、近くにおいでの際は、施設にも寄って頂けるようにしています。	入院されたらお見舞いに行ったり、電話をしたり、近くにおいでの際は、施設にも寄って頂けるようにしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居時に本人、家族様に介護に対する意向を聞き、出来る限り本人本位でいられるようにしています。また職員間でのコミュニケーションも大切にしている。	入居時に本人、家族様に介護に対する意向を聞き、出来る限り本人本位でいられるようにしています。また職員間でのコミュニケーションも大切にしている。	利用者とのコミュニケーションで心掛けている事は、スキンシップを交えながら急かすことなく待つ姿勢である。答えに選択肢を用意した問い掛け方もある。隣で話し相手をしている時などは想いを話してくれる事も多い。名前を覚えてお気に入りの職員を待つ方もいる。聞き取った事は職員のグループLINEやホワイトボードを利用して共有を図っている。そこからケアプランに反映させた例もある。	

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(1号館) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(2号館) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日々コミュニケーションをとり、本人様との雑談の中から生活歴を聞き、又家族様から情報を得て、アセスメントに落とし込み把握するようにしています。	日々コミュニケーションをとり、本人様との雑談の中から生活歴を聞き、又家族様から情報を得て、アセスメントに落とし込み把握するようにしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々コミュニケーションを取り、フェースシートに落とし込んで把握するように努めている。	日々コミュニケーションを取り、フェースシートに落とし込んで把握するように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にサービス担当者会議を開き、それぞれの意見を聞き介護計画を作成しモニタリングを行っている。	定期的にサービス担当者会議を開き、それぞれの意見を聞き介護計画を作成しモニタリングを行っている。	ケアプランの設定期間は6ヶ月毎だが、入居して暫くは3ヶ月毎であったり、利用者の様子をみながら臨機応変に対応している。本人の希望は日頃のケアの中で把握し、家族の要望等は来所時や電話での会話から汲み取っている。楽しく穏やかに過ごしてほしいと願う家族は多い。歳を重ねるごとに身体機能の低下は否めないが、残存能力の維持を意識して日々を積み重ねるケアに努めている。またケアプランの実施状況は日常的に把握しており、ケアマネジャーによるモニタリングも毎月行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	カルテの経過記録や熱計表は、日勤、夜勤、特別に変化があった時に記載する。又、スタッフ全員に伝えたい事は、LINEを使用し、情報を共有して実践や介護計画に活用している。	カルテの経過記録や熱計表は、日勤、夜勤、特別に変化があった時に記載する。又、スタッフ全員に伝えたい事は、LINEを使用し、情報を共有して実践や介護計画に活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズに応じ、他の事業所からの支援体制が取れるようにしている。(小規模多機能施設、有料老人ホーム、デイサービス等)	ニーズに応じ、他の事業所からの支援体制が取れるようにしている。(小規模多機能施設、有料老人ホーム、デイサービス等)		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(1号館) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(2号館) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員、慰問のボランティア、警察、消防の方に協力して頂き、暮らしを楽しむことができるようにしている。	民生委員、慰問のボランティア、警察、消防の方に協力して頂き、暮らしを楽しむことができるようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望される医療機関をかかりつけ医とし、必要に応じて往診が受けられるようにして、定期受診は、家族が付き添う。出来ない時は職員が対応している。	希望される医療機関をかかりつけ医とし、必要に応じて往診が受けられるようにして、定期受診は、家族が付き添う。出来ない時は職員が対応している。	現在は全員が協力医をかかりつけとしている。元々協力医の患者だった方は病歴等も知ってもらえている安心感があり、入居後に希望した方は往診等の説明を受け納得して変更している。月2回の訪問診療があり、家族アンケートでは殆どが「心配はしていない」と答えている。ストーマ外来など他科受診が必要な利用者には職員が付き添い、長い待ち時間が予想される場合は家族と連携しながら対応している。受診結果は当日中に家族に報告される。また月2～3回の訪問歯科もあり、認知機能との関わりから口腔ケアにも努めている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホーム内に看護師が居て日常の健康管理や適切な受診、看護が受けられるようにしている。	ホーム内に看護師が居て日常の健康管理や適切な受診、看護が受けられるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は定期的に面会に行ったり、電話をしたりして、医師、看護師、ソーシャルワーカーと情報交換を行っている。	入院中は定期的に面会に行ったり、電話をしたりして、医師、看護師、ソーシャルワーカーと情報交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(1号館) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(2号館) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	時期が来たらかかりつけ医、看護師、スタッフで、終末期のあり方について話し合い、本人や家族に意向を確認し、対応方法を文書で説明、同意を得ている。	時期が来たらかかりつけ医、看護師、スタッフで、終末期のあり方について話し合い、本人や家族に意向を確認し、対応方法を文書で説明、同意を得ている。	入居契約時に指針の説明を行っている。これまでに看取りの経験があり、今後も希望があれば応える用意もある。容態の変化に伴い揺れ動く家族の気持ちを踏まえ、話し合いは何度でも重ねる事とし医師の説明もある。医師からは親族の意見の一致を促すこともある。職員のフォローとして日頃から勉強会をもち、看護師の有資格者が隣接する事業所と合わせ4名いることは心強い。エンゼルケアまで施し、希望する家族とは一緒に行ったこともある。家族が居室に泊まり看取る事も可能である。本人や家族が安心して納得した最期を迎えられるよう支援しており、家族向けの看取りに関する冊子も準備中である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当、初期対応、救急救命の勉強会は行っている。	応急手当、初期対応、救急救命の勉強会は行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て定期的に訓練を行い(5月・11月)、消防、通報、避難誘導方法が身につくようにしている。 万が一に備え備蓄している。	消防署の協力を得て定期的に訓練を行い(5月・11月)、消防、通報、避難誘導方法が身につくようにしている。 万が一に備え備蓄している。	年2回の訓練には消防署も立会い、隣接する事業所と合同で行っている。昼間帯に実施され、夜間想定では夜勤者とみなした職員のみで初期対応を試み実際に近い形をとっている。利用者も一緒に避難を体験し、職員は通報装置や消火器の使い方も承知している。現在の避難場所は道路を横断した先の他法人施設にお願いしているが、同じ敷地内で事業所から少し離れた小規模多機能施設(同法人)への変更を検討している。各居室のドア上には名前札が掛けてあり、緊急時には外して利用者の首に掛ける仕様だが、外すことが居室から退避した合図にもなっている。ドアを塞ぐような家具の配置はなく、非常食等を備え、訓練日にはAED講習も続けている。立会いの消防署から反省点や課題の指摘があれば速やかに改善され全員に周知している。	

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(1号館) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(2号館) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)		
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援							
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日頃から尊厳を持って接する様に、理念や教訓を目につく場所に掲示して、本人の気持ちに配慮した言葉かけがさりげなく出来るようにしている。	日頃から尊厳を持って接する様に、理念や教訓を目につく場所に掲示して、本人の気持ちに配慮した言葉かけがさりげなく出来るようにしている。	トイレや入浴の介助では特に、羞恥心への配慮も窺える。ケアには同性が良いかと尋ねる事もその一例であり、ドアは閉める、オムツと言わずパンツと話す等々、職員の工夫が垣間見える。また呼び名は何がいいのか日頃の会話から察し、慣れ親しんだ呼び方になっている利用者もある。個人情報の取り扱いに関しても職員の意識は高い。業務上のやり取りであっても声の大きさには注意を払い、契約時に示される「個人情報の使用に係る説明」では安庵ニュースやSNSで情報発信する際の写真掲載について可否を尋ねる項目もある。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いを聞き、出来るだけ自己決定が出来るようにしている。	本人の思いを聞き、出来るだけ自己決定が出来るようにしている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホーム内での全体に日課はあるが、中でもどのように過ごしたいか希望を聞き、ケアプランを作成して、個々に沿った対応をしている。	ホーム内での全体に日課はあるが、中でもどのように過ごしたいか希望を聞き、ケアプランを作成して、個々に沿った対応をしている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理美容に関しては、訪問理容を利用したり、行きつけのある方は家族か職員が付き添い、その人らしい身だしなみが出来るように支援している。	理美容に関しては、訪問理容を利用したり、行きつけのある方は家族か職員が付き添い、その人らしい身だしなみが出来るように支援している。			

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(1号館) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(2号館) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューは、本人の希望を聞きながら、又食べやすい形で提供し少しでも食べて頂けるように支援している。出来る利用者様には食事の準備、後片づけを手伝っていただく事もある。	メニューは、本人の希望を聞きながら、又食べやすい形で提供し少しでも食べて頂けるように支援している。出来る利用者様には食事の準備、後片づけを手伝っていただく事もある。	献立は当日に決まる。利用者に食べたい物を尋ねたり冷蔵庫の中身から考えている。ユニットによっては曜日でカレー・シチューや麺類の日があったりもする。利用者の好き嫌いやアレルギー有無の把握もしており、苦手な食材や献立には代替えもある。ノンアルコールだが晩酌もでき、利用者にとっては楽しみとなっている。対面式キッチンからは調理の音や匂いがして食事時を知らせている。家庭と同じである。出来るだけ自分で口へ運んでほしいとの思いから自助食器も活用しつつ介助は最小限に止め見守ることもある。コロナ禍前は職員も一緒に食事風景であったが、再開にはもう少し時間が掛かると判断している。誕生日は当日とし、本人のリクエスト食と和菓子やケーキ類も用意され皆で祝っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量は、朝、昼、夕とカルテに記入して、摂取量が少なければバイタルサインをチェックして医師に報告し指示を仰ぐ。健康のバロメーターとして早期に異常の発見に努め、お一人お一人に応じた支援を行っている。	食事摂取量は、朝、昼、夕とカルテに記入して、摂取量が少なければバイタルサインをチェックして医師に報告し指示を仰ぐ。健康のバロメーターとして早期に異常の発見に努め、お一人お一人に応じた支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、本人のレベルにあった口腔ケアを行っている。自力で出来る人、一部介助が必要な人、全介助が必要な人(必要に応じての支援)また、歯科医からの助言も取り入れている。	毎食後、本人のレベルにあった口腔ケアを行っている。自力で出来る人、一部介助が必要な人、全介助が必要な人(必要に応じての支援)また、歯科医からの助言も取り入れている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(1号館) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(2号館) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	頻回な見守りをして、排泄パターンを知り、そして把握できたら、さりげなくトイレに誘導する。	頻回な見守りをして、排泄パターンを知り、そして把握できたら、さりげなくトイレに誘導する。	排泄に関して事業所ではチェック表を作らず、職員が各自のパターンを把握することで声掛けや誘導のタイミングを計っている。自ら尿意を告げる方もあり、日々のケアの効果はパッド類の使用枚数減にも表われ、費用負担の軽減へと繋がっている。日中はトイレでの排泄を支援し、自立した方も若干名いるが任せたままでではなく、さり気ない見守りである。トイレ内は車椅子使用でも十分な広さがあり、手すりは安全への配慮でもある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	旬の繊維の多い野菜を食材に多く取り入れ提供する。10時、15時はお茶したり、ホーム周辺を散歩したりと工夫している。	旬の繊維の多い野菜を食材に多く取り入れ提供する。10時、15時はお茶したり、ホーム周辺を散歩したりと工夫している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	一応曜日は決まっているが、作業後お風呂に入りたいとの要望があればシャワー浴を提供したり、ゆっくり入りたいという要望があれば納得されるまでの時間をかけている。又入浴を拒否される方へは、時間を置き何度も声掛けを行うようにしている。	一応曜日は決まっているが、作業後お風呂に入りたいとの要望があればシャワー浴を提供したり、ゆっくり入りたいという要望があれば納得されるまでの時間をかけている。又入浴を拒否される方へは、時間を置き何度も声掛けを行うようにしている。	入浴は週3回を目安としている。風呂の準備は毎日できており午前中に提供しているが、自己評価で記すように利用者の希望に沿った支援も行っている。拒む方には無理強いはないが、長く続けば職員のテクニックも活かし誘導している。リフト浴の設備は、利用者の安全な入浴と職員の腰への負担減にもなっており、脱衣場の隣にトイレがあることも使い勝手がよい。冬場のヒートショック防止には脱衣場から暖気を送る対策である。保湿効果のある入浴剤を入れ、ゆっくりと寛いでもらっている。衣服の脱ぎ着は出来るだけ本人に任せ見守っている。	

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(1号館) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(2号館) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室温には気をつけ、エアコン、電気毛布、電気カーペット、ファンヒーター、湯たんぽ、空気清浄機、除湿器を使用したり、疲れて足が腫れている人には、足を高くしたりして、居室、リビングで休息をとって気持ちよく眠れるように支援している。	室温には気をつけ、エアコン、電気毛布、電気カーペット、ファンヒーター、湯たんぽ、空気清浄機、除湿器を使用したり、疲れて足が腫れている人には、足を高くしたりして、居室、リビングで休息をとって気持ちよく眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬効、副作用が理解できるように一人一人の最新情報の薬の効能書きを各個人のカルテに綴じて情報共有している。	薬効、副作用が理解できるように一人一人の最新情報の薬の効能書きを各個人のカルテに綴じて情報共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居時に生活歴を聴取して、希望に添った楽しみ、役割の支援をしている。	入居時に生活歴を聴取して、希望に添った楽しみ、役割の支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物や散歩、ドライブ等、希望に添った外出支援に努めている。	買い物や散歩、ドライブ等、希望に添った外出支援に努めている。	コロナ禍では車窓からだけだったドライブも、車を降りて季節の花を楽しめるようになった。天候や体調をみて当日に決まり出掛けるドライブ等も今後はやってみたいと考えている。利用者の中には散歩を催促する方もいて、念のため車椅子も一緒に周辺を歩き、それが日常的な光景となっている。職員は日差しを浴びるメリットや五感の刺激を理解しており、全介助型車椅子を利用する方もあるが外気浴へと連れ出している。	

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(1号館) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(2号館) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持したいと言う希望があれば3000円程度は持てるようにして、又買い物の時など施設が立て替えるようにしている。	お金を所持したいと言う希望があれば3000円程度は持てるようにして、又買い物の時など施設が立て替えるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	家族や大切な人に電話が出来るように支援している。	家族や大切な人に電話が出来るように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日頃より換気をしたり快適な温度でいれるようエアコンを入れたりしている。又玄関には花を飾ったり、観葉植物を置いたりして居心地よく過ごせるようにしている。	日頃より換気をしたり快適な温度でいれるようエアコンを入れたりしている。又玄関には花を飾ったり、観葉植物を置いたりして居心地よく過ごせるようにしている。	道路脇に建つ事業所だが車の騒音は殆どない。日中はリビングで過ごす方も多く、日差しはレースカーテンで和らげている。思い思いの場所やソファで寛ぎ、利用者の動線上に行動を妨げる物もない。手を触れる箇所の消毒もこまめに行い、換気のため常に開けておく場所もある。トイレや浴室はきれいに掃除され嫌な臭気もない。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングには自由に過ごせるようソファ等置き、談話したりテレビをみたり、思い思いに過ごせるようにしている。	リビングには自由に過ごせるようソファ等置き、談話したりテレビをみたり、思い思いに過ごせるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(1号館) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(2号館) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている	タンス、布団、テレビ等、使い慣れた ものを持ち込み、本人が居心地よく 過ごせるようにしている。	タンス、布団、テレビ等、使い慣れた ものを持ち込み、本人が居心地よく 過ごせるようにしている。	火気等の危険物以外に持ち込む品 物の制限はない。タバコを吸う方も いるが禁止とせず、ライター等は預 かりながら場所を決めて吸って もらっている。仏壇を持つ方には職員 がサポートしている。寝具はレンタ ルであり、定期的な交換で清潔が保 たれている。家具の配置や飾り付け は本人と話しながらい、自作の模 型を飾っている方、観葉植物を並べ 世話をしている方もいる。馴染みの 物を活かし、利用者が居心地よく過 ごしてもらえるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や 「わかること」を活かして、安全かつできる だけ自立した生活が送れるように工夫して いる	バリアフリーにして、段差をなくした り、廊下、トイレ、風呂等手すりをつ けたり、ナースコールを付けたりして 出来るだけ自立した生活が送れる ようにしている。日付、曜日が分か りやすいように大きいカレンダーを 使用している。	バリアフリーにして、段差をなくした り、廊下、トイレ、風呂等手すりをつ けたり、ナースコールを付けたりして 出来るだけ自立した生活が送れる ようにしている。日付、曜日が分か りやすいように大きいカレンダーを 使用している。		

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目)(事業所記入)				
※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します				
項 目		取 り 組 み の 成 果		
		ユニットA	ユニットB	
↓ 該当するものに○印をつけてください				
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)	○	○	1. ほぼ全ての利用者の
				2. 利用者の2/3くらいの
				3. 利用者の1/3くらいの
				4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)	○	○	1. 毎日ある
				2. 数日に1回程度ある
				3. たまにある
				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目:49)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果		
		ユニットA	ユニットB	
		↓ 該当するものに○印をつけてください		
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目:9,10,19)	○	○	1. ほぼ全ての家族と
				2. 家族の2/3くらいと
				3. 家族の1/3くらいと
				4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)	○	○	1. ほぼ毎日のように
				2. 数日に1回程度ある
				3. たまに
				4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○	○	1. 大いに増えている
				2. 少しずつ増えている
				3. あまり増えていない
				4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目:11,12)	○	○	1. ほぼ全ての職員が
				2. 職員の2/3くらいが
				3. 職員の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	○	1. ほぼ全ての家族等が
				2. 家族等の2/3くらいが
				3. 家族等の1/3くらいが
				4. ほとんどいない